

武蔵野市図書館運営委員会 選書部会報告書

武蔵野市図書館運営委員会選書部会

平成 16 年 1 月

選書部会報告

〔選書部会の目的と討議経過〕

選書部会は武蔵野市図書館運営委員会の下部組織として平成 14 年 6 月 18 日に発足、同部会設置要綱に基づいて資料収集方針、蔵書構成その他図書館の選書一般の改善に関することを目的に計 14 回の討議を行い、平成 16 年 1 月 28 日この報告を取りまとめて運営委員会に提出した。この間、平成 15 年 5 月 14 日の運営委員会は、部会メンバーの 1 名増員を決め、山崎三省委員が追加選任された。山崎委員は同年 6 月 24 日の第 10 回選書部会から討議に参加した。

討議の結果、選書部会としては以下の提言を行うことで一致した。提言に至った理由、背景については後段において詳述する。なお、部会の討議対象は設置要綱によって図書館資料の選択・収集に限定されており、図書館としてのそれ以外の市民サービス全般には及んでいないことを付言する。

〔提言〕

・武蔵野市立図書館の新刊購入、蔵書構成については、現状において特別に大きな問題点はみられない。利用者に対するアンケート調査（後述）の結果を見ても「一般書の種類・冊数」に関しては「満足」「まあ満足」とするものが、「不満」「やや不満」との回答を遥かに上回っている。アンケート調査には限界があるとしても、大づかみな傾向はここにかがうことができる。

図書館利用者の満足度については継続して検証する必要があるが、満足度を維持、向上させるためには、ニーズをできるだけ的確に把握してこれに対応するよう日常的に敏感でなければならない。

・利用者のニーズを把握する手段の一つとして、アンケート調査が有効と思われる（運営委員会に提案し、平成 15 年 3 月実施された）。

- ・ 選書部会の討議を通じて、選書の仕組みに一部あいまいさが認められたので、図書館側に仕組みの見直しを要請する。仕組みが不確かであれば図書館蔵書の水準に影響を及ぼすと考えられるからである（図書館から平成 15 年 3 月 13 日に「選書方法の改善点について」と題する報告が提出された）。
- ・ いわゆるベストセラー図書には貸出の希望が多い。図書館では「貸出予約件数が所蔵冊数の 5 倍を超えた時点で 1 冊を追加購入する」との複本購入の内部基準を作っているが、選書部会としては当面この方針に賛同する。
- ・ 選書部会は図書及び郷土資料に限って討議対象としてきたが、利用者からの要望が多い新聞・雑誌及び視聴覚資料に関しても討議対象に加えることが望ましい。
- ・ 武蔵野市立図書館の現在の電算システムでは、「歴史」、「技術」、「産業」、「芸術」といった大まかな分類でしか所蔵・貸出冊数等の統計をとることができない。今後は、利用の動向等を正確に分析し検討するために、より詳細に統計をとることが可能な電算システムの構築をすることが望ましい。

〔武蔵野市立図書館の現状〕

平成 15 年度において、武蔵野市の図書館費は 425,791 千円、図書購入費予算は 74,112 千円である。これを市民 1 人当たりで見ると図書館費 3,243 円、図書購入費 564 円となる（資料 1）。

東京都市町村立図書館長協議会の調査によると、平成 15 年 4 月 1 日現在、人口 1 人当たりの図書購入費（雑誌・新聞を除く）は多摩地区の市部では武蔵野市が 1 位（564 円）を占め、2 位は調布市で 437 円、以下日野市、三鷹市、あきる野市の順となる（資料 2）。武蔵野市の蔵書冊数（図書のみ）は 546,838 冊で、一人当たりの蔵書冊数は 1 位小平市の 7.01 冊に対し、武蔵野市は 16 位の 4.16 冊に止まっている。また 1 人当り貸出し冊数（図書・雑誌）の 1 位は調布市の 11.9 冊で以下、清瀬・武蔵野（10.6 冊）・福生・多摩の順となっている（資料 3、4）。

1人当たり貸出冊数に影響する要因としては、1回あたり貸出冊数の上限、貸出期間、貸出対象図書などがあり、一概には言えないが、総合して武蔵野市立図書館が図書館活動において都下のトップクラスの位置にあることは間違いない。今後の課題としては、適正な構成で蔵書を増やし、その内容をより充実することにより、図書館利用の多様性に柔軟、迅速に対応していくことが重要であろう。

〔選書の仕組みについて〕

- 1) 武蔵野市立図書館の平成15年度図書購入予算は74,112千円、前年比99.2%であり、その内訳は資料の通りである。ここで明らかな如く、基幹となるのは中央図書館による一般図書の購入であり、全購入予算の64.7%を占める。従って選書部会は一般図書の選書の仕組みの点検に相当な時間を費やした(資料5)。
- 2) 一般図書の購入は平成4年作成の「武蔵野市立図書館資料収集方針」などに則って行われる。発注の形式は「見計らい(注1)・追加発注(注2)」「リクエスト(注3)・買い換え(注4)」「新継続(注5)」「ベル(注6)」に分類され、それぞれ予算に計上されている。

(注1) **見計らい** : T R C (株)図書館流通センター)は週に1度、図書館の需要が多いと予想される図書200冊程度を見計らって運び込む。図書館では全員が購入の是非を意思表示する事ができ、定められた選書グループが協議して決める。

(注2) **追加発注** : 持ち込み分に洩れた図書について、T R Cが発行する「週刊新刊全点案内」から職員全員が購入希望を出すことができ、選書担当者会議で購入の是非を決める。

(注3) **リクエスト** : 利用者は希望の蔵書がない場合、図書館に購入を求めることができる。図書館側は極力これに対応するよう努めている。

(注4) **買い換え** : 図書の内容が古くなったと判断された場合、買い換える。破損・汚損図書についても同様。

(注5) **新継続** : 全集、年鑑など継続して発行される図書について、発注洩れが生じないように、あらかじめ決まったタイトルのものは自動的に納品される発注方法。

(注6) **ベル** : T R Cは間違いなく需要が多いと見込まれる図書を分野ごとにグループ化して新年度に先立って図書館に提示し、図書館側が特定のグループをあらかじめ指定することで年間を通じて速やかな納品を確保する。

3) 予算上から明らかなように、一般図書に関しては「見計らい」及び「追加発注」が中心部分を成している。従って選書部会は選書の適正を期する目的で繰返しそれらの選書の仕組みを明確にするよう求めた。これに対し図書館側は平成 15 年 3 月 13 日「選書方法の改善点について」と題する報告を行ったが、その内容は概略以下の通りである。

「見計らい」図書については、職員全員が購入の是非を意思表示し、選書担当 1 名を含む職員 4 ~ 5 名から成る選書会議で決定する。利用者のニーズに対応した選書、バランスのとれた選書を目指すと共に、貸出、返却、レファレンス（資料の相談）などの日常の業務から知る利用の動向や社会の動きなどにも今まで以上に注意を払いながら選書に当たるよう、職員一同の意識や知識を高めて行く。

「追加発注」、「リクエスト」についてはそれぞれ担当者、責任者を明確にし、協議して決定する。

「ベル」については年度初めに職員全員の意見を求めた上、選書担当 4 人の会議で決定する。「新継続」は「追加発注」に含めて決める。

選書部会はこの報告を受け、報告内容の具体的な実施によって選書判断の質的向上が期待できるとの理解で一致した。

4) 「リクエスト」について問題となるのは、一般性に乏しい図書、高価な割には利用者が少ないと思われる図書などである。図書館ではこれらの図書については先ず都立図書館や他の市区立図書館から取り寄せて（協力貸出）対応することになっているが、他の図書館にも蔵書がなく、取り寄せ不能の場合は新規に購入するか否かを判断する必要がある。図書館では担当者 3 名により判断のうえ、最終的に図書館長が決定する仕組みをとっているが、選書部会はこのチェックの方式が妥当であると理解した。なお、これらの問題図書を除けば、現状では「リクエスト」全般について予算の範囲内で対応が可能である。また部会では「リクエスト」への対

応は市民からの要望に限定し、市外登録者のそれには応じるべきではないとの意見もあったが、当面は市民、市外登録者を問わず現行のままとすることで一致した。

〔外国語図書について〕

外国語図書に関しては平成4年7月作成の「外国語資料収集方針」(資料6)に則って行われているが、利用者のニーズを把握することは必ずしも容易ではない。アンケート結果においても「図書館で利用する資料」との設問に対して「外国語図書」と回答したのは3.3%に過ぎなかった(資料7)。また外国語図書の利用満足度としては「満足」、「まあ満足」の計13%に対し、「不満」、「やや不満」は計9%であったが、「普通」、「無回答」、「わからない」が計78%と圧倒的に多く、利用実態が少ないことを示す一方で、満足度をはかる尺度とはなりにくい結果となっている(資料8)。

図書館では、当面は現在ある外国語図書収集方針を基礎として 和書を外国語に翻訳した図書 日本語を学ぶ外国人向けの図書 日本に関する紹介書 主要言語による代表的な辞典・百科事典 外国で話題の新刊書、ベストセラーなどを中心に収集に当たるとしている。その上で今後、所蔵する外国語図書の利用状況などを通じてニーズの分析に努め、できるだけ早い時期に新たな選書方針を固めたいとの考えなので、選書部会はこれに賛同した。

〔児童図書及びYA(ヤングアダルト)図書について〕

児童向け図書に関しては「児童図書資料収集方針」(資料9)に基づいて収集が行われており、利用者の満足度はかなり高いようである。アンケート結果によれば回答者の14.4%が児童書を利用しており、「不満」、「やや不満」の3%に対し27%の回答者が「満足」、「まあ満足」と答えている(資料10)。児童図書の特徴は買い換えにある。よく利用される本、長く読み継がれる本は破損が激

しいので、日常的に本の状態や利用状況をチェックして買い換えを行っている。また図書館は児童サービスとして、乳幼児とその保護者に対する「ブックスタート」、小学3年生に対する「読書の動機づけ指導」のほか、本の紹介小冊子「ぶっくまーく」、「しおりちゃん」の発行（年3回）も行っているため、これらの児童サービスと関連した児童本の利用は非常に多いとのことである。

これに対してYA図書の利用度は必ずしも高くない。アンケートにおいて「図書館で利用する資料」との設問に対し「YA図書」と答えたのは僅か3.9%で「外国語図書」をやや上回る程度であった（資料11）。

YAサービスは、従来、青少年サービスとよばれていたものを、1970年代半ばから独立したサービスとして定着させ、13歳～18歳の中・高生を対象としている。その目的は、子どもから大人への移行期にある青少年に対して、知的好奇心を刺激するような資料を提供することにより、その後の読書の習慣づけや人間的な成長の一助とするところであり、将来の活字文化の発展に果たす役割は大きいと目されている。しかし現状においてはYA図書に対する関心は低いと言わざるを得ず、その傾向は平成13年までのYA図書貸出冊数の伸び悩みに現れている。図書館では、YA図書利用者層を拡大する狙いで平成14年3月からそれまで備えなかったコミックス（マンガ単行本）の導入に踏み切った。コミックスは一部を開架棚に置くだけで多くは書庫に収蔵し請求によって取り出す方式をとっているが、この結果、平成14年度のYA図書貸出冊数はコミックスを含む「芸術」部門で著増したほかYA図書全体でも前年度比35.7%増（全館貸出冊数は10.8%増）となった（資料12）。

選書部会はコミックスのすべてを否定するものではなく、内容的にすぐれたもののあることを認める立場で、図書館の導入措置を理解し、今後の動きを注意して見ることとした。

なお、YA図書については、学校図書室との連携をもっと検討すべきだとの

指摘もあった。

〔郷土・行政資料〕

郷土・行政資料を閲覧する人は少ない。アンケート結果においても回答者の2.3%に止まっている。しかし武蔵野市に関するものは市立図書館が責任を持つべき資料であるとして、武蔵野市立図書館資料収集方針においても武蔵野市に関する資料は、図書、新聞、雑誌、パンフレット、写真、地図など可能な限り収集する。特に市の行政資料は網羅的、継続的に収集する武蔵国、相模国に関する資料のうち武蔵野市に特に関係のある資料を中心に収集する東京都及び都内、区、市町村に関する資料は基本的資料（歴史、地理、統計書、要覧など）を収集するとしている。選書部会においてもたとえ日常的には閲覧者が少なくとも、長期的視点で積極的な収集に当たるべきであるとして、この方針に異論はない。

〔ベストセラー図書の複本購入〕

いわゆるベストセラー図書については利用者による貸出希望が多く、すべての図書館がその対応に悩んでいる。武蔵野市では予約件数が所蔵冊数の5倍を超えた時点で1冊を追加購入するという内部基準を作って対応している。これでいくと予約待ちが「3ヶ月以上にはならない」ことが一つの目安となる。過去最高の複本購入は「五体不満足」で37冊を購入したが、それでもこの本は1冊平均23回以上という読まれ方（99年度）だった（資料13）。

選書部会ではこの問題を様々な視点で討議した結果、原則として図書館の現行基準に賛成する一方で、ベストセラー本に限り貸出期間を通常の2週間から1週間に短縮して回転を早め、複本購入数を減らすことが望ましい。物理的に難しければ、借受人に早期の返却を促す措置をとることベストセラー本については館内閲覧に限定した各1冊を特定の開架棚に揃えること - などの措

置をとるよう要望した。この要望に対して図書館より以下のような報告があった。 については、貸出期間の短縮は困難であるが、従来より貸出時に早期の返却をお願いする“しおり”をはさんで貸出している。 については中央図書館で予約件数の多い1タイトルについて試行し、今後とも必要に応じて実施を検討していくとのことであった。

なお、図書売上の減少が図書館によるベストセラー本の大量貸出に起因するとして、作家・出版社などからその収入減をカバーするために、近年いわゆる「公貸権」の概念が出されていることにも留意が必要であると言う点を認識している。

〔不明本、買替え補充〕

選書部会の討議対象とはならないが、討議の過程で貸出未返却、盗難などによる不明本の存在について再三、問題提起があったので特記する。図書館では年1回、在庫本の点検を中心に「図書特別整理」を行っているが、平成14年10月の整理においては、蔵書数593,600冊のうち、2年連続して蔵書点検時に所在不明の8,913冊を「不明」として「除籍」した。これは蔵書数の1.5%に当たる。選書部会はこれを重要な問題ととらえ、運営委員会に報告して、その対策の討議を求めることにした。

また「買替え」については、最近のIT関連書や経済書は情報が陳腐化しやすいので、なるべく早い時期に買替える必要があるとの指摘があったが、これに対し図書館は、IT関連書、経済書については他の図書よりも早いサイクルで書庫入れしていること、法律書に関しては法改正があるごとに増補などを実施しているということであった。

〔未利用図書について〕

選書部会は図書館側に対して、購入はしたものの利用が乏しい、いわゆる未

利用図書の調査を依頼した。提出された平成 15 年 2 月 18 日作成の「平成 9 年度購入図書未利用一覧」によると、当年度の購入図書 13,036 点のうち 5 年間貸出ゼロの図書が 196 点あることが分かった。内容的には全集ものの未利用が目立っている（資料 14）。この結果をどう見るか評価はまちまちであり、調査結果を運営委員会に提出したところ「この程度の未利用率ならば、選書はよく行われていると考えるべきだ」との声があった。しかし選書部会では未利用図書の内容を吟味した結果、より慎重な選書を求める意見が多く、特に全集については安易な購入を避けると共に閲覧者の目に触れやすい場所に置くななどの工夫をすべきだとの指摘もあった。また図書館は、選書判断を向上させる上で、この未利用本リストを参考にするとのことであった。

〔選書の立場から見たアンケート調査結果の分析〕

まず利用者はどのような本を求めて図書館を訪れるのか。アンケートで「図書館で利用する資料」を聞いた結果（複数回答）、トップは「趣味・実用書」が 53.3%を占め、次いで「小説・文芸書」44.8%であり、この 2 ジャンルが突出している。更に「ベストセラー・新刊書」26.9%「学術書・専門書」23.6%が続く。児童書、参考図書（事典、辞典など）、美術書・全集などは利用者の 10%台で並び、YA 図書、外国語図書、地域行政資料、在住文化人の著書はそれぞれ 4%以下となっている。「趣味・実用書」「小説・文芸書」「ベストセラー・新刊書」を合わせて一般書とすると、一般書へのニーズが最も高いことがアンケートでも裏付けられている（資料 7）。

それならば、武蔵野市立図書館の利用者は図書館の蔵書に関しどの程度まで満足しているのか、調査結果でもっとも目立つのは「利用満足度」の中で「一般書の種類・冊数」については、「満足」17%、「まあ満足」38%の計 55%で、「不満」3%、「やや不満」11%の計 14%を大きく上回っていることである（資料 15）。その他では同じように児童図書の 27%対 3%、YA 図書 13%対 7%、

事典・辞典などの 29%対 11%、外国語図書 13%対 9%、高齢者・障害者用図書 9%対 4%となっており、一般書を中心として総じて図書館利用者に満足感を与えていると考えることができる。

一方、「現在あるサービスへの要望」の項目のうち選書関係を見ると、「ベストセラー・新刊書の充実」が 38.2%で最も多く、次いで「専門書・高価本の充実」27.6%である。「外国語図書の充実」も 8.4%あるが、これは先の 2 ジャンルと大きく引き離されている（資料 16）。

「ベストセラー・新刊書の充実」「専門書・高価本の充実」への要望は、図書館の基本的サービスに関することで当然に予想されるところであるが、アンケート結果によって要望の強さが確認できる。アンケートはすべてを正確に語るわけではないが、大づかみな傾向をこれによって知ることができるといえる。

選書部会では討議を通じて、これらの要望に応じなお一層の充実を期するためには、限られた予算をより効率的に使うことが必要であり、現在の選書の仕組みを改善・強化して選書判断の質的向上をはかるべきであるとの認識で一致した。

〔残された課題〕

選書部会は設置要綱などにより図書及び郷土資料に限って討議対象としてきた。従って新聞・雑誌や視聴覚資料については討議していない。しかしアンケート結果によってもこれらへのニーズが強いことから、新聞・雑誌、視聴覚資料についても現状でよいのか否か吟味することが望ましい。更に今回の選書部会の討議は一般図書が中心となったので、今後それ以外の外国語図書、児童図書、YA 図書、郷土資料についての討議を深めると共に、高齢者・障害者に向けた図書についても更に討議を進める必要があると思われる。

また部会では武蔵野市立図書館の蔵書全般について、どのような特色をもたせるべきかを繰返し討議したが、結論は得られなかった。この点については運営委員会の全体会議と平行して討議を続けるべきであろう。

(資料 1) 武蔵野市立図書館の経費(平成15年4月1日現在)

予算額(一般会計)(当初)	54,300,000 千円
図書館費予算額(当初)	425,791 千円
図書購入費予算額(当初)	74,112 千円
市民一人当たりの図書館費	3,243 円
市民一人当たりの図書購入費	564 円
職員数	34 人

(資料 2) 人口1人当り資料費及び図書費

(資料 4) 人口1人当り貸出冊数

順位	市名	資料費(円)	図書費(円)
1	武蔵野市	764	564
2	調布市	583	437
3	日野市	529	428
4	三鷹市	586	408
5	あきる野市	478	400
6	東久留米市	450	396
7	西東京市	467	382
8	福生市	562	370
9	東大和市	363	352
10	国分寺市	409	331

順位	市名	貸出冊数
1	調布市	11.9
2	清瀬市	11.2
3	武蔵野市	10.6
4	福生市	10.2
5	多摩市	10.0
6	西東京市	8.9
7	町田市	8.9
8	羽村市	8.1
9	国分寺市	7.7
10	国立市	7.2

(資料 3) 人口1人当り蔵書冊数

(資料 5) 平成十五年度図書購入予算内訳
(単位:千円)

順位	市名	冊数
1	小平市	7.01
2	福生市	6.31
3	清瀬市	5.48
4	瑞穂町	5.38
5	府中市	5.19
6	羽村市	5.07
7	多摩市	5.00
8	調布市	4.96
9	東村山市	4.95
10	あきる野市	4.89
11	国立市	4.82
12	国分寺市	4.78
13	立川市	4.42
14	稲城市	4.34
15	東大和市	4.27
16	武蔵野市	4.16

図書購入費	74,112
中央図書館	47,952
一般図書	41,710
外国語図書	900
郷土資料	642
児童図書	3,490
YA図書	1,210
西部図書館	10,130
一般図書	7,356
児童図書	2,774
吉祥寺図書館	16,030
一般図書	13,256
児童図書	2,774

(資料2, 3, 4)は東京都市町村立図書館長協議会の調査による多摩地区図書館統計調査結果(平成15年4月1日現在)から作成

(資料 6)

外国語資料収集方針

- 1 英語圏以外の外国人でも英語の読める人は多いので、英語資料を中心に収集する。また、フランス語、ドイツ語等にも留意する。
- 2 基本図書が収集されているペンギン・ブックスは、全点収集をめざす。
- 3 料理、デザイン、インテリア、住宅、図鑑、写真集、絵画集等は、積極的に収集する。
- 4 英訳された日本語の著作は、代表的なものを収集する。
- 5 日本語を学ぶ外国人のためのテキストは、積極的に収集する。
- 6 日本語のガイドブックは、厳選して収集する。
- 7 主要言語による代表的な辞典、百科事典は、積極的に収集する。
- 8 利用の見込まれる他の参考図書も、できるかぎり収集する。
- 9 外国で話題の新刊書、ベストセラーは、できる範囲で収集する。
- 10 アジア地域の言語による資料は、今後、要望が増える可能性があるので、当面は新聞・雑誌で対応し、図書については、今後の課題として検討する。

(平成4年7月16日)

(資料 9)

児童図書資料収集方針

(目的)

武蔵野市立図書館の児童図書資料の収集にあたっての基準を定めるものとする。

(基本方針)

武蔵野市立図書館の児童図書資料として以下のものを収集する。

- 1 読書を通じて子どもの豊かな感性・想像力を養い、子どもに読書の楽しさを伝えられる資料。具体的には以下の点に留意する。
 - (1) 絵がすぐれているかどうか(絵を主な表現手段としているものについて)
 - (2) 作者の訴えたいものが伝わるかどうか
 - (3) 話がおもしろく、また読みたいと思うかどうか
- 2 学習・教養・レクリエーションなどに役立つ資料(ただし、学習参考書・受験参考書などは原則として収集しない。)
- 3 障害のある子どもが利用できる資料。
- 4 高い評価を得ている外国語で書かれた図書。
- 5 その他
 - (1) ダイジェスト本を入れる場合は、できるだけ原作の意をそこなわずに書かれたものを収集する。
 - (2) マンガについても、原則として他の資料と同様に検討の対象とする。

(ジャンル別収集方針)

各々のジャンルについては、以下の方針に基づいて収集すること。

1. 絵本

- (1)子どもにとっての最初の読書の体験を与えるものとして、創造性・想像性の豊かなもの
- (2)絵がすぐれているもの
- (3)子どもが理解でき、美しい言葉で書かれているもの
- (4)子どもの発達段階に応じた書き方のされているもの
- (5)子どもが扱いやすく、こわれにくいもの

2. よみもの

- (1)それぞれの年齢にあった書き方がされているもの
- (2)登場人物が生き生きと描かれていて、子どもが共感できるもの
- (3)明解・簡潔で美しい言葉で書かれているもの
- (4)さし絵が内容にふさわしいもの

3. 知識の本

- (1)正確な知識に基づき、最新の情報がもりこまれているもの
- (2)子どもにとって興味深く、わかりやすく書かれているもの

4. 実用書(芸術・スポーツ・趣味・娯楽)

- (1)子どもの興味あるもので、わかりやすく、楽しめるもの
- (2)子どもの生活に役立ち、自分で工夫をこらすことのできるもの

5. 郷土資料

- (1)武蔵野市の地域学習に役立つ資料
- (2)子どもに、武蔵野市の歴史や市の様子について、興味をもたせるもの
- (3)それらのことがらが、わかりやすくかかっているもの

6. 参考図書

- (1)内容が正確で新しく、わかりやすくかかっているもの
- (2)子どもが自分で調べたり、学習したりするときに使いやすいもの

7. 紙芝居

- (1)子どもが楽しめるもの
- (2)文にリズムがあり、演じやすいもの
- (3)紙芝居で表現することが、ふさわしいもの
- (4)大勢の子どもたちに演じることができるもの

8. 児童図書選定のための資料

- (1)小さな子どもをもつ親や、子どもの本に関心をもつ人などが、子どもの本を選んだり、与えたりする際の参考となるもの(ブックリストなど)

(平成4年7月16日)

(資料13 - 1) 平成14年度 人気ランキング(一般図書ベスト15)

順位	図書名	著者名	出版社	複本数	利用回数
1	模倣犯 上	宮部 みゆき	小学館	29冊	565回
2	模倣犯 下	宮部 みゆき	小学館	28冊	537回
3	理由	宮部 みゆき	朝日新聞社	18冊	365回
4	話を聞かない男,地図が読めない女	アラン・ピース	主婦の友社	24冊	334回
5	あやし	宮部 みゆき	角川書店	13冊	293回
6	ドリームバスター	宮部 みゆき	徳間書店	15冊	292冊
7	ハリーポッターと賢者の石	J.K.ローリング	静山社	25冊	292回
8	ぼんくら	宮部 みゆき	講談社	16冊	278回
9	あかんべえ	宮部 みゆき	PHP研究所	12冊	264回
10	ハリーポッターとアズカバンの囚人	J.K.ローリング	静山社	26冊	264回
11	血脈 上	佐藤愛子	文芸春秋	15冊	249回
12	プラナリア	山本文緒	文芸春秋	14回	245冊
13	天国への怪談	白川 道	幻冬舎	18冊	243回
14	ハリーポッターと秘密の部屋	J.K.ローリング	静山社	24回	242回
15	クロスファイア	宮部 みゆき	光文社	12冊	233回

ベストリーダー統計一覧(2002年度)より作成

(資料13 - 2) 平成11年度 人気ランキング(一般図書ベスト15)

順位	図書名	著者名	出版社	複本数	利用回数
1	五体不満足	乙武 洋匡	講談社	37冊	856回
2	理由	宮部 みゆき	朝日新聞社	18冊	431回
3	鉄道員(ぼっぼや)	浅田 次郎	集英社	11冊	394回
4	レディー・ジョーカー 上	高村 薫	毎日新聞社	14冊	374回
5	永遠の仔 上	天童 荒太	幻冬舎	21冊	374回
6	節約生活のススメ	山崎 えり子	飛鳥新社	14冊	368回
7	少年H 上巻	妹尾 河童	講談社	11冊	365回
8	永遠の仔 下	天童 荒太	幻冬舎	20冊	347回
9	レディー・ジョーカー 下	高村 薫	毎日新聞社	14冊	320回
10	柔らかな頬	桐野 夏生	講談社	16冊	312回
11	バースデイ	鈴木 光司	角川書店	8冊	293回
12	アウト	桐野 夏生	講談社	10冊	285回
13	女たちのジハード	篠田 節子	集英社	11冊	283回
14	少年H 下巻	妹尾 河童	講談社	11冊	282回
15	秘密	東野 圭吾	文芸春秋	12冊	267回

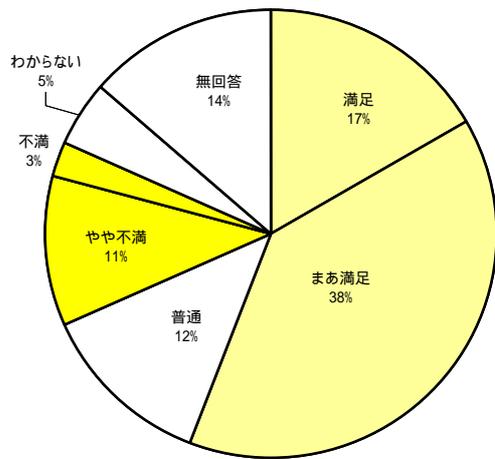
ベストリーダ統計一覧(1999年度)より作成

(資料 14) 全集本の利用頻度(平成14年12月調査)

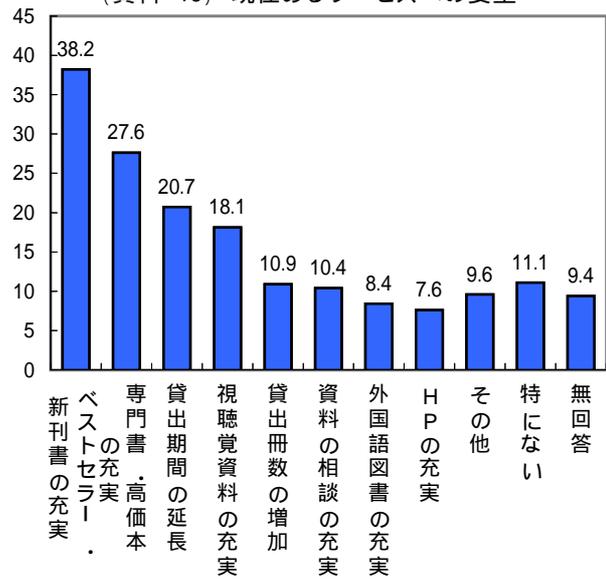
全集名	所蔵巻数			全集名	所蔵巻数				
家永三郎集	16巻	未利用	7巻	全集世界の食料 世界の農村	27巻	未利用	10巻		
		利用1回	5巻			利用1回	9巻		
		3~4回	4巻			2~3回	8巻		
折口信夫全集	127巻	未利用	70巻	中野重治全集	29巻	未利用	11巻		
		利用1回	22巻			利用1回	11巻		
		2~5回	24巻			2~3回	7巻		
		6~10回	8巻	日本農書全集	73巻	未利用	49巻		
		11~20回	3巻			利用1回	18巻		
加藤周一著作集	23巻	未利用	4巻	2~3回	6巻				
		利用1回	1巻	日本の写真家	41巻	未利用	12巻		
		2~5回	10巻			利用1回	18巻		
		6~10回	5巻			2~4回	11巻		
		10回~	3巻	冷泉家時雨亭叢書	59巻	未利用	38巻		
新日本古典文学大系	110巻	未利用	10巻			利用1回	9巻		
		利用1回	12巻			2~4回	12巻		
		2~5回	39巻			井上 靖全集	29巻	未利用	11巻
		6~10回	20巻					利用1回	5巻
		11~15回	12巻	2~5回	13巻				
16~20回	6巻	5回~	3巻						
21~30回	12巻	江戸川乱歩全集	25巻	全巻10~90回 の利用あり					
30回~	4巻								

第6回武蔵野市図書館運営委員会選書部会提出資料による

(資料 15) 一般書の種類・冊数について



(資料 16) 現在あるサービスへの要望



(資料12)を除いたすべてのグラフは、第5回武蔵野市図書館運営委員会提出資料「武蔵野市図書館利用実態調査結果 - 集計グラフ」より作成
(資料12)は第10回武蔵野市図書館運営委員会選書部会提出資料による